

令和3年度「静岡県産業教育振興会教員産業視察」報告書

静岡県立浜松大平台高等学校
実習助手 大塚夏希
(教諭 鈴木宏和)

1 日時及び見学先

(1) 令和3年10月22日(金)

【菜ッ花園】 所在地 愛知県豊橋市老津町鎌倉4

(2) 令和3年12月23日(木)

【はままつフルーツパーク時之栖】 所在地 浜松市北区都田町4263-1

(3) 令和3年12月27日(月)

【駿河ガーデン】 所在地 沼津市岡宮569-2

(4) 令和4年1月14日(金)

【はままつフラワーパーク】 所在地 浜松市西区舘山寺町195

今回は、新型コロナウイルスの影響で移動制限が設けられていたため、視察場所が当初の計画から上記の見学先に変更した。

2 見学の趣旨

(1) 本校では、科目「草花演習」においてシクラメンの栽培を行っている。シクラメンは、単価も高く、収益を上げる主要生産物である。

シクラメンは他の草花とは違い、栽培が難しく、手間と時間が必要となる。昨年度からシクラメンの担当をしているが、経験が浅いため、商品価値の高いシクラメンが生産できていない。

そこで、シクラメン栽培の高い技術力を持った先進優良農家を訪問し、栽培技術を学び、本校における高品質なシクラメンの生産とその栽培技術の確立のために視察研修を実施した。

(2) 本校では、科目「グリーンライフ」においてウメ、ミカン、カキなどの果樹を栽培している。さらに、来年度からはブルーベリーも導入する予定である。そこで、果樹栽培において高い技術力を持った関連企業から基本的な肥培管理や剪定技術を学び、今後の栽培技術を向上させるために視察研修を実施した。

(3) 本校では、科目「草花」と科目「草花演習」において、花壇苗の販売を実施している。そこで、花壇苗を栽培している先進優良農家を訪問し、栽培技術や工夫点などを学び、本校の花壇苗栽培に生かしたいと考え、研修を実施した。

(4) 本校では、科目「草花」と科目「草花演習」において、近隣公園への花壇の植え込み、プランターの寄せ植えなどを実施している。

そこで、花壇の展示に力を入れている関連企業を訪問し、展示の工夫点や草花の管理技術を学び、花壇のデザインに生かしたいと考え、視察研修を実施した。

3 見学内容及び所見

(1) 菜ッ花園

菜ッ花園を訪問し、代表中村孝康様からお話を伺った。

温室施設約4000㎡、露地圃場1000㎡所有しており、シクラメンやガーデンシクラメン、ニチニチソウ、アジサイなどを栽培している専業農家である。

シクラメンは、F1品種の種を購入し、専用培養土を用い、追肥や灌水を植物の状況を観察しながら与えている。

肥培管理をはじめ、出荷調整作業や栽培上の工夫点、種苗会社、資材の購入先など、様々なことを丁寧に教えていただき大変参考になった。

(2) はままつフルーツパーク時之栖

はままつフルーツパーク時之栖に勤務している果樹担当の野寄真右様からお話を伺った。

総面積は43ha。当園は、果樹の栽培だけではなく、グランピングやイルミネーションなど幅広い活動を行っている観光施設である。

ミカンは、収穫時期がずれる品種を栽培し、収穫期間が長くできるように工夫されている。晩生種である青島は隔年結果になりやすいため、剪定方法を工夫している。

園内に植樹されているミカン、ウメ、ナシ、リンゴ、カキ、ブドウ、ブルーベリーなどを視察した。剪定、肥料、農薬散布、品種選択など、適切な作業設計が高品質な果実を得るために重要なことだと理解した。

(3) 駿河ガーデン

駿河ガーデンの経営者である持田忠継様からお話を伺った。

栽培面積は施設が7200㎡、露地は5000㎡。法人化はしておらず、家族とパートで運営を行っている。冬場はパンジーやピオラ、ガーデンシクラメン、ルピナスなどを栽培している。

土の配合や肥料、土壌消毒の方法、農薬散布、品種の確定方法、播種時期など栽培に関わる基本知識から販売方法などを丁寧に教えていただいた。

(4) はままつフラワーパーク

はままつフラワーパークに勤務している加藤道男様にお話を伺った。

栽培面積は30ha。サクラやチューリップ、バラなど約3000種類の花を栽培している観光施設である。

花梅は、開花時期をずらした、110品種300本植樹されている。剪定方法や農薬散布など、栽培に関する知識を教えていただいた。

花壇の展示方法は、ブロックごとにテーマを決め、宿根植物や常緑植物を織り交ぜながら定植している。デザイナーが展示している花壇もある。

バラは、約1300本植栽されている。専門業者に年4回位来ていただき、剪定方法や管理作業のノウハウを教えていただいている。今回、実際に剪定を見学した。

まとめ

先進優良農家や関連企業に訪問させていただき、様々な技術や知識を得ることができた。

この研修の成果を今後の糧にし、本県農業の充実に力添えができるよう、日々精進していきたい。

